



ふるさと納税協力事業者

ヘルト株式会社

MADE IN JAPAN を発信

昭和28年（1953年）に河村商店として創業し、野球スパイク、登山靴など製造販売されてきました。現在はヘルト株式会社としてスキーブーツの企画・製造・販売をされています。

（写真は河村尚紀 代表取締役社長）

川西町梅戸155-1

URL : <http://www.held.co.jp/index.html>

『メイド・イン・ジャパン』
が武器にならない？

——川西町でスキーブーツのメーカーがあることは、意外に思われる方も多いかもしれません。

河村さん 元々は野球のスパイクや登山靴などを製造していました。現在は国産のスキー靴メーカーとして、自社ブランドを展開しています。ヨーロッパのメーカーの印象が強い分野なので、『知る人ぞ知る』存在なのかもしれませんね。

——国産ということですが、昨今『メイド・イン・ジャパン』が注目されています。海外での評価に影響はありますか？

河村さん スキー靴の市場、特に欧米では『日本製』ということはありません。欧米ではイタリア製が主流です。国内でもヨーロッパのメーカーと比べると、ロット数が少なく苦戦しています。——そのことが一般ユーザー向けのモデルに加えて、競技用の新ブランドを始め、たことに影響しているのでしょうか？

河村さん モノづくりをす

る以上は、いいものを作って、正當に評価されたいと思っています。そこでアスリートに弊社のモデルを使用してもらい、機能面でヨーロッパのメーカーに劣らないことを証明しようとして、競技用ブランド『アヴィリバ』を展開しています。競技で結果を残してもらったことよって、自社のブランド価値の底上げを目指しています。

足に合うブーツを選んでほしい

——ユーザーからの評価はいかがでしょう？

河村さん 国内やアジアでは『日本製』ということが強みとなります。アジア系の人とヨーロッパ系の人では、膝から下の長さ、くるぶしの位置、足の形がまったく違います。日本人の足に合わせて作っているの、履いていただくと気に入ってもらえると思います。スキー場での『試履（しばき）会』など、試してもらえるような機会を積極的に作っています。また、オフシーズンには、ファンミーティングを開き、ユーザーとの交流や意見交換を行

っています。

——スキー靴が合わなくて、スキーを敬遠する人もいてるので、ぜひとも試してみしてほしいですね。

河村さん 足を入れて履きやすいと感じるものが売れ筋の商品ですね。しかし滑っていないときに窮屈に感じたとしても、滑走時に発揮されるパフォーマンスで評価をされたいという職人のジレンマもあります。本當に合うブーツは窮屈に感じても「痛い」はないので、足にあったスキー靴を選んでほしいですね。

ふるさと納税の返礼品として提供

——返礼品として提供いただく、すぐに反響がありました。

河村さん いいタイミングで川西町商工会に声を掛けていただきました。取引先の手前、旧モデルを中心に提供してきたのですが、反響もあることや、取引先からの理解も得られたので、今年から最新モデルもラインナップできるようになりました。弊社の商品を知ってもらえる機会になれば嬉しいです。